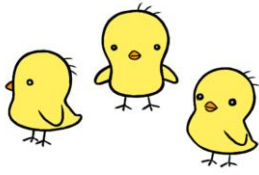


ひよこだよ



都立大塚ろう学校 乳幼児教育相談
平成30年10月12日 NO. 6

~~のあき

朝夕涼しくなってきましたが日中はまだ暑い日があります。寒暖差が大きいので、風邪をひいているお子さんとお母さんが多いです。手洗いやうがいをしっかり丁寧にしていましょ

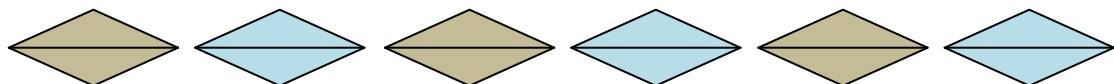
ひよこ組に来たときは必ず手洗いをお願いしています。子供たちは習慣になっているので、教室に着くと自分から「手を洗う」と言います。そしてお母さんに「タオル（ハンカチ）は？」と言



秋といえば 食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋・・・などが思いつきます。旬のおいしい食べ物がスーパーマーケットにたくさん並んでいます。先日の1歳児、2歳児のグループ活動では梨とりんごを食べました。形は同じでも皮の色が違うことを意識して見たり、丸のまま皮をむいたり、香りをかいだりしてみました。リンゴと梨の味や触感の違いを感じることができたでしょうか。活動に参加した子供たちは、学校だけではなくお家でも目の前で皮をむいて食べたそうです。皮を食べてみたお子さんもいたようです。皮はむくけど食べることもできるという発見ができました。

ブドウ、柿も秋の果物です。スーパーマーケットには今たくさんのブドウが並んでいます。紫の粒でも緑の粒でも、大きくても小さくても「ブドウ」という名前ということをお話すチャンスです。皮をむくブドウ、皮ごと食べることができるブドウ、種があるブドウ、種がないブドウ楽しいお話がたくさんできます。同じブドウなのに不思議ですね。「不思議」という気持ちを感じてもらいたいですね。

また、幼稚部の園庭には柿の木があります。緑の柿の実がだんだんオレンジになっていく様子を見ることができます。そして、オレンジ色になったらやっと柿を食べることができます。ワクワクしますね。柿を見ることができなくても、毎日の生活の中で葉っぱの色が変わること、草の様子が変わることなどを見ることができます。小さな秋を見つけるつもりで変化を見付けてみましょう。



そして「読書の秋」です。本の読み聞かせをしているお母さんはたくさんいらっしゃいます。懇談会でお話を聞いたり生活記録を読ませていただくと、お母さん方が本を意識して触れさせていることが分かります。成人の聴覚障害者の方から「日本語の力を付けるためには本をたくさん読むことが大切です。」という話をよく聞きます。また、ろう者、聴者に

関係なく日本語力のある人は本が好きでたくさん本を読んでいます。ことばの面だけでなく表現力を高めたり、感性を磨いたり、創造力を豊かにしたりと心も大きく成長します。特に聴覚に障害のある子供たちにとっては、視覚から入る情報はとても大切です。できるだけ本が好きなお子さんに育てたいです。「読書の秋」です。本屋さんに行ったり、図書館に行ったりしてみてもいいでしょう。

K君が大好きなのは「おつきさまこんばんは」
1歳児、2歳児グループ活動でも読みましたね。
日が暮れるのが早くなり夕方お月様が見えるようになりました。月を見てみましょう。丸い月、細長い月など形の変化にも意識させたいです。この本はお月さまの表情がとても分かりやすく小さい子供も大好きな本です。



Mちゃんのお気に入りの本は「にじいろカメレオン」
簡単な仕掛け絵本になっていて色もきれいなので本に興味をもち手に取りたくなる本です。触って動かせるのも楽しいです。

Oちゃんが好きなのはだるまさんのシリーズです。
Oちゃんは、絵本を見ながら絵と同じように動いて楽しんでいるそうです。体を「だ・る・ま・さ・ん・が」のリズムに合わせて揺らしたり、「どてっ」とつぶれたり、はじめはお母さんと一緒に動いていますがだんだんと絵のまねをして自分で動くようになります。



今回は3人のお子さんの好きな本を紹介しました。おすすめ絵本がありましたら懇談会のときに教えてください。



家で好きなときに自分で好きな本を取り出して見ることができる環境を作ると子供たちは本を身近に感じ興味をもつようになります。家の中で本をゆっくり読む時間を作ってみましょう。
(文責 海保)